A 群 科 目　■専攻理論

専攻科1年次　講義　4単位　通年

科目名	日本美術史	担当者	宮 嶋 幸 子
授業概要	本講義では平安後期以降の絵画を中心として日本美術の歴史を概観することにより、古代から近世にかけての日本美術史の基礎概念を学習します。		
到達目標	1 各時代の代表的な作品や作家を分析することで、それらの特質を説明できる 2 それぞれの美術が成立した歴史的経緯を具体例をあげて説明できる 3 過去の美術が現在の美術に与えた影響について具体的に説明できる 4「芸術」「美術」「美術史」という枠組みが日本に導入された経緯を説明できる		
授業計画	前　期 1　オリエンテーション　美術史の対象と日本美術史の時代区分 2　平安時代　やまと絵 1：「唐絵」と「やまと絵」の違いについて 3　平安時代　やまと絵 2：みやびを描く「源氏物語絵巻」 4　平安時代　やまと絵 3：コトを描く「信貴山縁起絵巻」と「伴大納言絵詞」 5　鎌倉時代　肖像画：個人を描くということ 6　鎌倉時代　初期水墨画：禅僧と中国文化 7　室町時代　水墨画：詩画軸　理想郷に遊ぶ 8　室町時代　水墨画：雪舟　日本水墨画の大成 9　室町時代　狩野派の登場：和漢融合 10　桃山時代　金碧障壁画：狩野永徳　権力と絵画の関係 11　桃山時代　近世の芸能と工芸：わびとさび 12　桃山時代　近世初期風俗画：「ひと」への関心 13　江戸時代　寛文美人図と浮世絵の誕生 14　江戸時代　浮世絵：モードを描く 15　江戸時代　江戸時代の狩野派と粉本主義 16　江戸時代　若冲と応挙：江戸時代における「写生」 後　期 1　江戸時代　琳派：絵画と工芸の融合 2　江戸時代　文人画派：「文人画」と「南画」の差異 3　江戸時代　文人画派の展開：関西南画と関東南画 4　江戸時代　江戸時代のやまと絵：土佐派と復古大和絵 5　江戸時代　洋風画：実証主義の流行と写実的表現 6　明治時代　「洋画」の誕生：美術教育と美術学校 7　明治時代　「日本画」の誕生：フェノロサが日本絵画に与えた影響 8　明治時代　「新しい日本画」：フェノロサと岡倉天心が目指したもの 9　明治時代　白馬会：洋画における旧派と新派 10　明治時代　歴史画の流行：国民国家と美術 11　明治時代　「美術」の誕生と展覧会 12　大正時代　フュウザン会：個性を主張する画家たち 13　大正時代　グラフィックデザイン：杉浦非水にみる西洋近代ポスター芸術の受容 14　昭和時代　戦前の前衛美術：1930 年協会と独立美術協会 15　昭和時代　戦争と美術：藤田嗣治 16　まとめ　伝統と反動		
教科書テキスト参考書	教科書は特に指定しません。講義中にレジュメを配布します。参考書は適宜講義中に紹介します。		
評価の方法	授業への取り組み方（提出物・受講態度など）50%　学期末試験 50%、以上を総合的に判断して評価します。なお出席回数が規定を満たしていない場合は不可とします。		
実務経験	美術館および博物館該当施設での伝統工芸担当の学芸員経験を生かして、日本の美術史について講義する		
備考	講義内容の性質上、スライドやビデオ等の視覚資料を中心とした講義になります。		

専攻科1年次　　講義　4単位　通年

科目名	西洋美術史	担当者	髙　藤　大　樹
授業概要	この授業では、古代から 19 世紀までの西洋美術史の基本的な流れを一年間かけて扱います。美術には時代や地域ごとに異なる様式（独自の型）がある一方で、同時に、多くの作品が時代を超えて共通する主題や造形上の約束事をもっており、一見すると難解かもしれません。授業では、「西洋美術で規範とされてきた型や主題とは何か？」ということをテーマとし、それがどのように生まれ、どのように変化していったのか分かりやすく解説していきます。代表的な様式や作品を広く紹介しますので、未知の作品と出合っても方向がわかるような自分の地図を作っていきましょう。		
到達目標	・西洋美術史の基本的な流れを理解し、説明することができる。（テストで確認） ・各時代における代表的な様式や主題を説明することができる。（テストと毎回の小レポートで確認）		
授業計画	前　期 1　ガイダンス 2　古代地中海世界の美術　古代エジプトの葬送美術 3　古代ギリシア美術(1)　ギリシア神殿の建築様式と神話の世界 4　古代ギリシア美術(2)　ギリシア彫刻の様式とその変遷 5　古代ローマ美術(1)　ローマ帝国の拡大と建築 6　古代ローマ美術(2)　肖像彫刻とポンペイ壁画 7　初期キリスト教美術 8　中世キリスト教美術(1)　ビザンティン美術 9　中世キリスト教美術(2)　ロマネスク美術（中世教会建築の様式１） 10　中世キリスト教美術(3)　ゴシック美術　（中世教会建築の様式２） 11　中世末期の美術 12　ルネサンス美術(1)　古典復興の時代 13　ルネサンス美術(2)　盛期ルネサンス１ 14　ルネサンス美術(3)　盛期ルネサンス２ 15　まとめ 16　テスト 後　期 1　ガイダンス 2　ルネサンスの変容と伝播(1)　マニエリスム 3　ルネサンスの変容と伝播(2)　北方ルネサンスと宗教改革 4　バロック美術(1)　対抗宗教改革とイタリアの状況 5　バロック美術(3)　同 フランドルの状況 6　バロック美術(3)　同 スペイン、フランスの状況 7　アカデミーと古典主義 8　17 世紀オランダ絵画(1) 9　17 世紀オランダ絵画(2) 10　ロココ美術(1) 11　ロココ美術(2) 12　革命期の美術(1)　新古典主義 13　革命期の美術(2)　ロマン主義（フランス） 14　革命期の美術(3)　各国におけるロマン主義の展開 15　まとめ 16　テスト		
教科書テキスト参考書	適宜、プリントを配布します。		
評価の方法	期末テスト（筆記試験、80%）と、授業に取り組む姿勢（毎回の小レポート、20%）で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、西洋美術史の基本的な流れと代表的な作品名や作家名、主題や造形表現にたいする基礎知識が身に付く指導をする。		
備　考			

専攻科2年次　　講義　4単位　通年

科目名	美学・芸術学	担当者	髙　藤　大　樹
授業概要	西洋において美や芸術は古代以来さまざまな立場から捉えられてきました。特に 19 世紀以降は、それまでの枠組に対して大きく変換をせまる傾向が次々と登場してきます。その中で、以前までの考え方の何が問題とされ、どのように変えようとされたのでしょうか。この授業では、(比較的取り組みやすい絵画を中心に) 19 世紀における芸術観の変化から 20 世紀のモダンアートまでを順に取り上げ、芸術の在り方が従来の枠組からどのように変化していったのか美学・芸術学の理論を通じて具体的に紹介していきます。		
到達目標	・近現代に提起された、芸術の在り方を巡るさまざまな立場や造形表現と、美や芸術の古典的な規範とのちがいを説明することができる。(テストと授業に関する小レポートで確認) ・近現代の芸術に含まれる問題意識を自らの言葉で説明できる。(テストで確認)		
授業計画	前　期 (19 世紀から 20 世紀にかけての芸術 (特に絵画) の推移を概観する。) 1　ガイダンス 2　自然主義とレアリスム 3　印象主義 4　後期印象主義 5　世紀末芸術 6　フォーヴィスム 7　キュビスム 8　ドイツ表現主義 9　デ・ステイルとロシア・アヴァンギャルド 10　ダダイズムとデュシャン 11　シュルレアリスム 12　エコール・ド・パリ 13　抽象表現主義 14　ポップ・アート 15　まとめ 16　テスト 後　期 (前期の内容をふまえ、近現代に特有のトピックを紹介する。) 1　ガイダンス 2　芸術と自然(1) ：ドイツロマン主義を糸口に 3　芸術と自然(2) ：風景から環境へ 4　工芸とデザイン(1)　：アーツ・アンド・クラフツ運動 (世紀末芸術との影響関係) 5　工芸とデザイン(2)　：バウハウス (20 世紀前半の動向との影響関係) 6　工芸とデザイン(3)　：日本の民藝運動 7　複製技術時代の芸術(1) ：ポスター／写真 8　複製技術時代の芸術(2) ：映画 9　芸術制度の外へのまなざし　：素朴派やアール・ブリュットなどを糸口に 10　日本における西洋美術の受容と誤解(1)　：19 世紀後半の状況 11　日本における西洋美術の受容と誤解(2)　：20 世紀前半の状況 12　20 世紀後半の動向(1)　：○○アートの時代へ (1960～70 年代の状況) 13　20 世紀後半の動向(2)　：ポストモダン建築 (1970～80 年代の状況) 14　20 世紀後半の動向(3)　：シミュレーショニズムとそれ以後の状況 (1980 年代～) 15　まとめ 16　テスト		
教科書テキスト参考書	適宜、プリントを配布します。		
評価の方法	期末テスト (筆記試験、80%) と、授業に取り組む姿勢 (毎回の小レポート、20%) で評価。前期 (50 点) ＋後期 (50 点) の合計点で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、近現代の西洋美術史と芸術理論の展開に関する基本知識が身に付く指導をする。		
備　考			

B 群 科 目　■専攻理論

専攻科1年次　講義　2単位　前期

科目名	美術教養特論Ⅰ　美学・美術史（Ⅰ）	担当者	髙　藤　大　樹
授業概要	美術(＝造形芸術)は、かたちを表現しているという点で「見る」芸術だといえます。美学においても、芸術はしばしば美しい「見かけ」という問題の中でとり上げられてきました。授業では、この美しい「見かけ」という観点から西洋美術の価値観を考えていくことにします。代表的な作品を時代ごとに紹介しながら授業を進めますので、「見る」ということからあらためて美術を理解する機会としてください。（前期では 19 世紀までをとり上げます。）		
到達目標	・美術史の基本的なトピックを「見る」ということから理解し、自らの言葉で説明することができる。（テストで確認） ・美や「見かけ」についての様々な立場にたいして自らの意見を述べることができる。（テストと授業に関する小レポートで確認）		
授業計画	前　期（受講生の理解の度合いに合わせて内容を多少変更する場合がある。） 1　ガイダンス 2　古代ギリシアにおける美の思想(1)（プラトンのイデア論） 3　古代ギリシアにおける美の思想(2)（アリストテレスの芸術論） 4　中世キリスト教美術の世界 5　ルネサンスにおける人間精神の探求(1)（古典復興と自然科学） 6　ルネサンスにおける人間精神の探求(2)（「芸術家」の誕生） 7　ルネサンスにおける人間精神の探求(3)（ルネサンスの伝播と変質） 8　バロックの精神(1)（カトリック圏における仮象(見かけ)の世界） 9　バロックの精神(2)（プロテスタント圏への影響と変質） 10　理性の時代と仮象(1)（新古典主義との関わりにおいて） 11　理性の時代と仮象(2)（ロマン主義との関わりにおいて） 12　美と崇高（カントの美学） 13　芸術と遊戯（シラーの美学） 14　美しい芸術の終焉（ヘーゲルの美学） 15　まとめ 16　テスト		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントを配布します。		
評価の方法	期末テスト（筆記試験、80%）と、授業に取り組む姿勢（毎回の小レポート、20%）で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、西洋美術史に関する基本知識と共に、芸術を巡る思想の基礎が身に付く指導をする。		
備　考			

専攻科1年次　　講義　2単位　後期

科目名	美術教養特論Ⅰ　美学・美術史（Ⅱ）	担当者	髙　藤　大　樹
授業概要	美術(＝造形芸術)は、かたちを表現しているという点で「見る」芸術だといえます。美学においても、芸術はしばしば美しい「見かけ」という問題の中でとり上げられてきました。授業では、この美しい「見かけ」という観点から西洋美術の価値観を考えていくことにします。代表的な作品を時代ごとに紹介しながら授業を進めますので、「見る」ということからあらためて美術を理解する機会としてください。（後期は 19 世紀後半から 20 世紀までをとり上げます。）		
到達目標	・美術史の基本的なトピックを「見る」ということから理解し、自らの言葉で説明することができる（テストで確認） ・美や「見かけ」についての様々な立場にたいして自らの意見を述べることができる。(テストと授業に関する小レポートで確認)		
授業計画	後　期（受講生の理解の度合いに合わせて内容を多少変更する場合がある。） 1　ガイダンス 2　装飾・表面性にたいする関心(1)（世紀末芸術の展開） 3　装飾・表面性にたいする関心(2)（ボードレールにおけるマキアージュの美学） 4　装飾・表面性にたいする関心(3)（ニーチェの仮象崇拝） 5　近代の視覚体験と仮象(1)（レアリスムの表現） 6　近代の視覚体験と仮象(2)（印象派の表現） 7　モダニズムの冒険(1)（抽象美術への道） 8　モダニズムの冒険(2)（抽象美術の展開） 9　モダニズムの冒険(3)（機能主義） 10　「無意識」の世界に向かって(1)（シュルレアリスムと近代精神病理学） 11　「無意識」の世界に向かって(2)（シュルレアリスムにおけるイメージの復権） 12　芸術とは何なのか？（マルセル・デュシャンの芸術理解） 13　現代「アート」の諸相 14　シミュラークルの誘惑　（現代消費社会の記号論） 15　まとめ 16　テスト		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントを配布します。		
評価の方法	期末テスト（筆記試験、80%）と、授業に取り組む姿勢（毎回の小レポート、20%）で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、西洋美術史に関する基本知識と共に、芸術を巡る思想の基礎が身に付く指導をする。		
備　考			

専攻科2年次　　講義　2単位　前期

科目名	美術教養特論Ⅱ　考古学概論（Ⅰ）	担当者	前　園　実知雄
授業概要	地上に残る遺跡や発掘調査で明らかになった資料をもとに、旧石器時代から、飛鳥・奈良時代までの日本の歴史を描いてみたい。特に日本の古代史の中心地であった大和（奈良）の遺跡に重点をおいて考える。		
到達目標	文献史料では知ることのできない、古代人の生活、さらに思いを彼らが実際に残した遺跡、遺物を通して考え、現代人の進むべき道について理解を深める。		
授業計画	前　期 1　歴史（考古学も含めて）は何のために学ぶのか 2　考古学とはどのような学問か 3　考古学の資料と方法 4　旧石器時代研究の幕開け 5　縄文時代（第一の道具と第二の道具） 6　弥生時代（稲作の起源とその伝播） 7　弥生時代（クニから国へ） 8　古墳時代の始まり（前方後円墳の出現） 9　倭の五王とその時代 10　藤ノ木古墳と東アジアの文化 11　飛鳥の諸宮 12　飛鳥時代の古墳 13　仏教寺院の成立 14　奈良時代の墳墓（太安萬侶墓） 15　唐招提寺と鑑真 16　東大寺大仏の持つ意味		
教科書テキスト参考書	プリント資料配布。		
評価の方法	レポート等で評価。		
実務経験	現地調査や報告書、論文執筆などの実務経験を生かして授業を行う。		
備　考			

専攻科2年次　　講義　2単位　後期

科目名	美術教養特論Ⅱ　考古学概論（Ⅱ）	担当者	前　園　実知雄
授業概要	「シルクロードの考古学」というテーマでユーラシア、アジア大陸を東西に結ぶ交易の道の歴史と、その道を通じてもたらされた数々の文化について考える。なかでも飛鳥・奈良時代の日本の文化に大きな影響を与えたとされる「仏教伝播の道」を、現地の写真資料を用いてたどる。		
到達目標	私達が日本古来の文化と思っているものの中には、外来文化が基礎になっているものが多い。それらの文化を俯瞰的にとらえ、日本文化の理解を深める。		
授業計画	後　期 1　シルクロードとは 2　シルクロードの風土と地理 3　シルクロードの探検家達　(1)　張騫、法顕、玄奘 4　〃　(2)　マルコ・ポーロ 5　〃　(3)　プルジュワルスキー 6　〃　(4)　ヘディン 7　〃　(5)　スタインと敦煌莫高窟 8　〃　(6)　ペリオ、大谷探検隊 9　〃　(7)　河口慧海 10　タクラマカン砂漠周辺の遺跡 11　青海路の調査 12　天空の道・青海路（新シルクロード　DVD） 13　大仏の来た道―バーミヤンから東大寺― 14　日本の中のシルクロード文化（法隆寺と正倉院） 15　シルクロードの現在 16　まとめ		
教科書テキスト参考書	プリント資料配布。		
評価の方法	試験等で評価。		
実務経験	現地調査や報告書、論文執筆などの実務経験を生かして授業を行う。		
備考			

専攻科2年次　　講義　2単位　前期

科目名	美術教養特論Ⅱ　芸術学	担当者	川　野　恵　子
授業概要	本授業では、ルネサンス以降のフランスを中心とした芸術史の流れを概観しながら、「芸術」概念の変遷を学んでいきます。芸術とは「独創的なものである」という考え方は今日一般的ですが、芸術とは「模倣するものである」と考えられていた時代もありました。このような時代ごとの芸術の多様な在り方を、具体的に芸術作品を検討しながら学んでいきましょう。		
到達目標	・西洋芸術概念の変遷を理解し、説明することができる。 ・授業内容を明晰に要約することができる。		
授業計画	前　期 1　ガイダンス　芸術作品を論じる方法について 2　文化政策としての芸術：16 世紀フランス文化 3　自由学芸としての芸術：17 世紀絶対王政期の文化 4　感覚のための芸術：17 世紀色彩論争 5　市民のための芸術：18 世紀サロン展の流行 6　国民のアイデンティティーとしての芸術：18 世紀末フランス革命と芸術 7　社会をうつしだす芸術：19 世紀レアリスムの動向 8　デザインとしての芸術：19 世紀の産業革命とアール・ヌーヴォー 9　個性としての芸術：19 世紀マネの革新 10　現象としての芸術：19 世紀印象派、ポスト印象派の動向 11　マイノリティのための芸術：20 世紀アヴァンギャルドと女性収集家 12　コンセプトとしての芸術：20 世紀ダダと複製技術 13　地方行政のための芸術：20 世紀コンテンポラリー・ダンスの発達 14　記憶/記念としての芸術：クリストとキーファーのインスタレーション 15　未来を予言する芸術：コロナ禍直前のフランス芸術 16　まとめと期末試験		
教科書 テキスト 参考書	資料を配布します。参考書などは、授業中に適宜ご紹介いたします。		
評価の方法	授業への姿勢(30%)、不定期の授業内小レポート(30%)、期末試験(60%)		
実務経験	神奈川県立近代美術館　非常勤学芸員		
備　考			

C 群 科 目　1回生　■専攻演習･専攻実習

専攻科1年次　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅰ（洋画制作Ⅰ）	担当者	高 橋 顕 児
授業概要	造形表現の基本である人体を中心に、その内側にひそむ造形上の要素を学びとり、多様な造形理論と造形実習を通して、いろいろな表現技法を修得する。その造形美を自らの絵画表現に包含させながら、オリジナルな表現が出来るように導く。		
到達目標	・自然への感性、感動に向って対象を見つめ、描き進めている。 ・対象の色彩や形の多様性を感じ表現できている。 ・物の存在感、遠近、空間の表現が深まっている。		
授業計画	前　期 1　人体のプロポーションと面の組み立てを学びとる。 2　立体的バランス、動勢の美（形の芯とは何か） 3　光の明暗による面の表現（トーン） 4　色彩による面の組み立て（ヴァルール） 5　画面全体の構図と色彩の対比と調和 6　以上のこと繰り返し、深めていく。 7 ↓ 8 9 10 11 12 13 14 15 ▼ 16　まとめ 後　期 1　石膏像、自然物、静物、風景にまで、対象を広げて深める。 2　※色彩は油彩と水彩を使用します。 3 ↓ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 ▼ 16　まとめ		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	制作過程、作品の内容、授業態度により評価します。		
実務経験	幼児～中学生の絵画工作指導（幼稚園で 33 年間）、個展、グループ展にて発表、幼児～小学生の絵画工作指導と社会人対象の洋画指導（カルチャーセンターにて 11 年間）の経験を活かし、具体的に丁寧に指導する。		
備　考			

専攻科1年次　　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅰ（日本画描写Ⅰ・Ⅱ）	担当者	中尾　壽男・大槻　睦子

授業概要

日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を身につける。岩絵具の持つ独特の美しさや、マチエール等の表現技法を制作演習を通して深く研究する。また、自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。

到達目標

・題材となる写生作品を完成させる。
・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。
・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。

授業計画

前　期

1	オリエンテーション	
2	小下図の研究	
3	草稿	裸婦デッサン
4	〃	〃
5	制作１	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	草稿（80 号）
9	〃	〃
10	合評会	
11	小下図の研究	
12	草稿の完成	
13	パネル作り（号数選択）	
14	制作２	題材取材（写生）とテーマの研究
15	〃	〃
16	合評会	

後　期

1	制作２	〃
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	合評会	研究発表・相談会
6	小下図の研究	
7	草稿の完成	
8	パネル作り（号数選択）	
9	制作３　美術館鑑賞	題材取材（写生）とテーマの研究
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃　学外講師による特別講義	〃
15	〃	〃
16	合評会	研究発表・相談会

教科書テキスト参考書

美術全集

評価の方法

制作態度及び作品の達成度で評価する。

実務経験

定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。

備考

専攻科1年次　　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅰ（立体造形演習Ⅰ）	担当者	谷　口　嘉　彦
授業概要	視覚造形表現上の平面２次元空間と立体３次元空間における表現上の変遷を理解し、さらに時間や光の要素を加えた４次元空間と、映像空間表現に通底する、空間内の立体造形表現の可能性について、様々な仮説命題を元にした、立体と空間表現方法の検証を通して課題作品制作を行う。		
到達目標	・立体と空間認識について基礎的な概念を説明できる。　・表現テーマにおける対立概念を明快に設定できる。・表現テーマのコンセプトを明確に立案できる。　・表現方法として実在とデジタル双方で行うことができる。・メッセージを発信する姿勢を持って作品表現することができる。		
授業計画	前　期 1　教科ガイダンス　立体と平面の概念認識について 2　Work１　テーマ：空間と点・線・面・量の存在について検証 3 4　　テーマ：線材による空間表現 5 6　Work２　テーマ：実態と影についての考察―対立概念の理解 7　実像と虚像―実在するものと、その虚像の存在関係について表現の可能性をアイデア検証 8　①並置による考察―存在そのものについての感覚的感得と対立概念の言葉での理解・意味付け 9　②自然物・人工物の存在の中から、その対立概念設定による表現の可能性を探る 10　③実態存在と対峙するデジタル画像存在の意味性に対する考察と理解 11　④各自設定の対立概念にもとずく試作品制作 12　アイデア展開・実験・試作品制作 13 14 15 16　作品完成、講評、まとめ 後　期 1　work３　テーマ：空間の魅力―自然材・人口材による空間表現の可能性 2　空間造形表現におけるコンセプトワークと表現テーマに対する考察 3　アイデア展開 4 5 6　スケールモデル制作による検討 7 8　作品制作 9 10 11　中間チェック 12 13 14 15 16　作品完成、講評、まとめ		
教科書テキスト参考書	必要参考資料をプリント配布及び参考画像映写。		
評価の方法	概念形成への理解度の深さ。表現コンセプト立案能力。 表現方法の展開能力と作品完成度に対する総合評価。		
実務経験	長年の大学教育現場と立体造形制作者としての実務経験を生かして、コンセプト表現に必要な、様々な素材についての知識・加工技術を通じて表現方法を指導する。		
備　考	授業には各自ノート PC 持参。		

専攻科1年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅰ（洋画制作Ⅲ）	担当者	小　笠　美　華
授業概要	主に人体をモデルに、木炭、水彩、油彩によるデッサンに取り組む。対象をしっかり観察し、線、面、色彩、構図、空間、画材料の効果等、様々な造形要素を用いて、対象を把握し絵画表現できるよう学ぶ。		
到達目標	・対象をしっかり観察して描ける。 ・造形要素を工夫して絵画を構成していける。 ・画材料の特性や効果を有効に使える。		
授業計画	前　期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16　まとめ、評価 後　期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16　まとめ、評価		女性、男性、群像の人体をモデルに以下のことを学ぶ。 ・人体のプロポーションを正確に捉える ・人体の構造的把握 ・線による動勢の表現 ・面、塊での把握による量的、立体的表現 ・構図の工夫で画面構成を意識的に行う ・絵具を用いて人体の肌色の表現 ・絵具や、様々な画材を用い、対象やそれが存在する空間の表現 自然の観察を基に、人物、静物、風景にも対象を広げ、 さまざまな画材料、造形要素を工夫して用い、二作品以上を制作
教科書 テキスト 参考書	随時紹介。		
評価の方法	授業への取り組み、作品を総合的に評価。		
実務経験	個展、グループ展等の展覧会での作品発表や受賞歴など作家としての活動経験を活かし、描く対象を観察、把握して絵画表現していくことを具体的に指導する。		
備　考			

専攻科1年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅰ（日本画制作Ⅱ・Ⅲ）	担当者	広岡　真彩彦・石股　　昭

授業概要

自己の設定したテーマを造形的な観点から吟味させ、そのテーマに基づく最も適切なモチーフを選定し独自な表現へと発展させる。
自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の段階で、制作テーマの選定、画面の構成、色調等、今までに学習した表現技法を最大限駆使して、意図する内容を最も効果的に表現できているかをそれぞれ厳しく追及し、高度な表現へと深まるよう適切な指導を行い制作する。

到達目標

・テーマに基づく最も適切な表現を小下図を通して研究する。
・表現技法や材料を生かした作品を完成させる。
・自らの作品について客観的に理解し述べることができる。

授業計画

前　期

1	オリエンテーション	
2	小下図の研究	
3	草稿の完成	
4	パネル作り（号数選択）	
5	制作１	
6	〃	
7	〃	
8	〃	裸婦草稿の完成（80 号）
9	〃	パネル作り
10	合評会	裸婦の制作
11	小下図の研究	〃
12	草稿の完成	〃
13	パネル作り（号数選択）	〃
14	制作２	〃
15	〃	〃
16	合評会	合評会

後　期

1	制作２
2	〃
3	〃
4	〃
5	合評会
6	小下図の研究
7	草稿の完成
8	パネル作り（号数選択）
9	制作３
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	〃
16	合評会

教科書テキスト参考書

評価の方法

制作態度及び作品の達成度で評価。

実務経験

定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、作家の資質として必要な作品分析力と表現力を高める指導を行う。

備考

専攻科1年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅰ（立体造形実習Ⅰ）	担当者	富　松　留　幹
授業概要	立体造形に関心を深めて、自己の立体表現の支持体を理解する。 対象物を深く観察して、モデリング・カービング技法により、自己のイメージを具現化する過程を体感する。		
到達目標	・立体造形の知識と技術を修得し表現の多様性を知り、実践することができる。 ・イメージする能力を高めて表現の独創性を高める事ができる。		
授業計画	前　期 1　授業概要の説明と導入 2　課題①自然石 or 果物をモチーフに分割とデザイン 3　★観察とアイデアスケッチ 4　★プレゼンシート作成（A3 サイズ） 5　★フォルモ粘土による制作 6　★彩色用具による細密描写 7　★作品講評 8　②“手”モデリング 9　★観察とアイデアスケッチ 10　★プレゼンシート作成（A3 サイズ） 11　★ハリ金、木片にて芯型制作 12　★フォルモ粘土等による制作 13　★作品講評 14 15 16 後　期 1　③カービング“有機形態” 2　★アイデアスケッチ／デザインチェック 3　★プレゼンシート作成（A3 サイズ） 4　★バルサ材による制作 5　★作品講評 6 7 8　④自主研究テーマ課題 9　★テーマ設定と研究 10　★自由メディアによる制作 11　★作品講評 12 13 14 15 16		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	授業実習態度と提出作品の独創性・完成度による総合評価で行う。		
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を教える。個性豊かな独創的発想と造形素材の研究を指導する。		
備　考			

専攻科1年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅱ（洋画制作Ⅸ（古典技法））	担当者	小　笠　美　華
授業概要	テンペラ画の模写に取り組み、支持体製作、地塗り、メディウム、絵具の調合等の実習を通して、絵画の物質的な成り立ちを学ぶ。 また、制作過程において、技法の歴史を学び、特性を理解しながら技術を習得していく。		
到達目標	・テンペラ画の技法の特性を学び計画的に制作を進めることが出来るようになる。 ・作品について研究しながら、技法を生かした模写を完成させる。		
授業計画	テンペラ画 前　期 1　模写作品選定、DVD 鑑賞 2　作品研究 3　支持体製作　下絵制作 4　〃 5　石膏地塗り 6　〃 7　地塗り調整 8　下絵転写 9　箔下とのこ塗り 10　とのこ磨き 11　金箔置き 12　金箔磨き、装飾 13　描画 14　〃 15　〃 16　〃 後　期 1　作品研究、制作の計画 2　描画 3　〃 4　〃 5　〃 6　〃 7　〃 8　〃 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　まとめ、評価		
教科書 テキスト 参考書	参考書：『黄金背景テンペラ画の技法』田口安男（著）、『黄金テンペラ技法』紀井利臣（著） 『画家のための処方箋』ロバート・マッセイ（著）山添耕治（訳）		
評価の方法	制作への取り組み、作品で総合的に評価。		
実務経験	個展、グループ展等の展覧会での作品発表や画材研究など作家としての活動経験を活かし、画材料の取り扱いや技法の特性を具体的に指導する。		
備　考	デリケートな仕事なので、画材料、道具の丁寧な使用と、制作室を使いやすく清潔に保つことを心がけること。		

専攻科1年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅱ（日本画制作Ⅶ）	担当者	辻　野　宗　一
授業概要	自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の制作に合わせ、自己の設定したテーマを端的に表す小品作品の制作を行う。大作作品の表現でつかみづらい全体の構成力や独自な表現の可能性を探る。表現技術においても小品に応じた工夫が必要である。 また、日本画材料の特性を生かした新しい可能性の表現を探る。		
到達目標	・テーマに基づくイメージを小下図に表現することができる。 ・適切な技法を用いて小品作品を完成させる。 ・日本画材の表現方法を研究し発表することができる。		
授業計画	前　期 1　オリエンテーション 2　小下図の研究 3　〃 4　〃 5　草稿 6　〃 7　パネル作り 8　小品制作　2点 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　合評会 後　期 1　オリエンテーション 2　日本画の材料等の研究（新しい表現方法の研究） 3　〃 4　〃 5　研究発表 6　進級制作　小下図の研究 7　草稿の完成 8　パネル作り（号数選択） 9　制作 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　合評会		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、プロの作家として必要な個人的な表現力、小品制作や習作を含めた作品制作の指導を行う。		
備　考			

専攻科1年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅱ（立体造形実習Ⅱ）	担当者	中　川　賀　照
授業概要	立体造形の多様な表現方法について、世界の彫刻の歴史から学ぶとともに、実習Ⅱではモデリング技法に重点を置き、古代から土偶や埴輪などに見られるテラコッタ技法を用いて、人や動物、自然などの造形物から想起した立体造形を追求します。		
到達目標	・彫刻技法の中のモデリング技法について、説明することができる。 ・テラコッタの歴史や基礎的な技法を理解し、説明することができる。 ・テラコッタ技法を用いた作品を創ることができる。		
授業計画	前　期 1　○ 世界と日本の彫刻 2　○ 彫刻の技法と素材 3　○ ブロンズ彫刻の修復保存 4　○ テラコッタ技法 5　○ 課題Ⅰ（動物をつくる） 6　・エスキース 7～11　・制作 12　・乾燥 13　・焼成 14　・成型 15　・合評 16　○ まとめ 後　期 1　○ 課題Ⅱ（人物をつくる） 2　・アイデアスケッチ 3・4　・エスキース 5～11　・制作 12・13　・乾燥､焼成 14　・成型 15　・合評 16　○ まとめ		
教科書テキスト参考書	適宜、プリントや資料を配布。		
評価の方法	発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などの総合的評価。		
実務経験	大学や県民講座の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導する。		
備　考	実習に適した服装、実習の準備や片付けの励行。		

C 群 科 目　2回生　■専攻演習･専攻実習

専攻科2年次　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅱ（油彩制作Ⅰ）	担当者	高 橋 顕 児
授業概要	造形表現の基本である人体を中心に、その内側にひそむ造形上の要素を学びとり、多様な造形理論と造形実習を通して、いろいろな表現技法を修得する。その造形美を自らの絵画表現に包含させながら、オリジナルな表現が出来るように導く。		
到達目標	・対象をヴァルール(絵具の調子・色彩)の正確さで表現できる。 ・作品のビジョンを表現できる絵画的方法を追求している。 ・作品の構成ができている。		
授業計画	前　期 1　人体のプロポーションと面の組み立てを学びとる。 2　立体的バランス、動勢の美（形の芯とは何か） 3　光の明暗による面の表現（トーン） 4　色彩による面の組み立て（ヴァルール） 5　画面全体の構図と色彩の対比と調和 6　以上のこと繰り返し、深めていく。 7　デッサンは石膏像、自然物、静物、風景にまで、対象を広げて深める。 8　※色彩は油彩と水彩を使用します。 9 10 11 12 13 14 15 16　まとめ 後　期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16　まとめ		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	制作過程の熱意、作品の内容、表現力、完成度。		
実務経験	幼児～中学生の絵画工作指導（幼稚園で 33 年間）、個展、グループ展にて発表、幼児～小学生の絵画工作指導と社会人対象の洋画指導（カルチャーセンターにて 11 年間）の経験を活かし、具体的に丁寧に指導する。		
備　考			

専攻科2年次　　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅱ（日本画描写Ⅳ・Ⅴ）	担当者	中尾　壽男・井手本 貴子

授業概要

日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を身につける。岩絵具の持つ独特の美しさや、マチエール等の表現技法を制作演習を通して深く研究する。また、自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。

到達目標

・題材となる写生作品を完成させる。
・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。
・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。

授業計画

前　期

1	オリエンテーション	
2	小下図の研究	
3	草稿	
4	〃	明日香村写生
5	制作１	〃
6	〃	〃
7	〃	写生合評会・作品展
8	〃	
9	〃	
10	合評会	
11	小下図の研究	
12	草稿の完成	
13	パネル作り（号数選択）	
14	制作２	題材取材（写生）とテーマの研究
15	〃	〃
16	合評会	

後　期

1	制作２	〃
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	合評会	研究発表・相談会
6	小下図の研究	
7	草稿の完成	
8	パネル作り（号数選択）	
9	制作３　　美術館鑑賞	題材取材（写生）とテーマの研究
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃　　学外講師による特別講師	〃
15	〃	〃
16	合評会	研究発表・相談会

教科書テキスト参考書	美術全集
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。
備考	

専攻科2年次　　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅱ（立体造形演習Ⅱ）	担当者	谷　口　嘉　彦
授業概要	現代美術作品例の解説を通じて、アート表現者（発信者）と鑑賞者（受信者）の関係を理解し、表現者としてのアイデア発想を展開するための授業とします。ここでは様々な対立概念を設定した発想を元にして、表現行為を明確にするコンセプトワーク（概念形成）を通じて学び課題作品制作を行う。		
到達目標	・対立概念におけるアート命題を発見することができる。　・表現テーマのコンセプトを明確に立案できる。・表現方法として実在とデジタル双方で行うことができる。　・表現メッセージを発信する姿勢で制作ができる。		
授業計画	前　期 1　Work 1　テーマ：対立概念からの発想表現 2　テーマの検証・理解―コンセプト立案 3　アイデア展開 4　アイデア検証 5　マケット制作 6　作品制作 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16　作品完成、講評、まとめ 後　期 1　work 2　テーマ：空間の魅力演出―光による空間演出 2　空間造形表現におけるコンセプトワークと表現テーマの考察 3　アイデア展開 4 5　スケールモデル制作による検証 6 7　作品制作 8 9 10 11 12 13 14 15 16　作品完成、講評、まとめ		
教科書テキスト参考書	必要参考資料をプリント配布及び参考画像映写。		
評価の方法	概念形成への理解度の深さ。表現コンセプト立案能力。発想力と表現方法の展開及び作品完成度に対する総合評価。		
実務経験	長年の大学教育現場と立体造形制作者としての実務経験を生かして、コンセプト表現に必要な、様々な素材についての知識・加工技術を通じて表現方法を指導する。		
備　考	授業には各自ノート PC 持参。		

専攻科2年次　　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅲ （油彩制作Ⅶ・油彩制作Ⅷ（デッサン））	担当者	高橋　顕児・生島　　浩

授業概要

油彩制作Ⅶ：人体をモデルに描くことで、自然の造形的な骨格を描くとともに、その周囲の空間、空気表現まで進みたい。

油彩制作Ⅷ（デッサン）：石膏像を中心に形、面の立体的認識、把握力を土台として、さらに面にあたる光の明暗の差の全体的認識から、明度の階調の描写へ。又、物の外側、背景、空気、空間の表現へ。物と空間の存在描写を進めたいと考えています。

到達目標

・人体表現の骨格が絵画として立体的で自然である。
・石膏像の美しい動きが描けている。
・その重さ、質感、空間が描ける明暗の階調がある。

授業計画

	前期　油彩制作Ⅶ	前期　油彩制作Ⅷ（デッサン）
1	人体のプロポーションと面の組み立てを学びとる。	導入　１年間のスケジュール説明
2	立体的バランス、動勢の美（形の芯とは何か）	物の造形的美しさとは何か デッサンとは何か
3	光の明暗による面の表現（トーン）	幾何形体
4	色彩による面の組み立て（ヴァルール）	〃
5	画面全体の構図と色彩の対比と調和	自然物（固有色と光の階調）
6	以上のこと繰り返し、深めていく。	〃
7		〃
8		〃
9		〃
10		石膏像　頭像（木炭デッサン） 物と空間表現
11		〃
12		〃
13		〃
14		〃
15		〃
16	まとめ	まとめ
	後期	**後期**
1	石膏像、自然物、静物、風景にまで、対象を広げて深める。	〃
2	※色彩は油彩と水彩を使用します。	〃
3		〃
4		石膏像　胸像（木炭デッサン） 物と空間表現
5		〃
6		〃
7		〃
8		〃
9		〃
10		〃
11		〃
12		〃
13		〃
14		〃
15		合評会
16	まとめ	まとめ

教科書テキスト参考書

評価の方法

制作過程、作品の内容、授業態度により評価します。

実務経験

個展、公募展等展覧会での作品発表、受賞歴等、作家としての活動経験と、幼児教室から大学での幅広い教員経験を活かし、学生一人ひとりの特性を見極めながら具体的に指導する。

備考

専攻科2年次　　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅲ（日本画描写Ⅳ・Ⅴ）	担当者	辻野　宗一・井手本 貴子

授業概要

日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を身につける。岩絵具の持つ独特の美しさや、マチエール等の表現技法を制作演習を通して深く研究する。また、自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。

到達目標

・題材となる写生作品を完成させる。
・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。
・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。

授業計画

前　期

1	オリエンテーション	
2	小下図の研究	
3	草稿	
4	〃	明日香村写生
5	制作１	〃
6	〃	〃
7	〃	写生合評会・作品展
8	〃	
9	〃	
10	合評会	
11	小下図の研究	
12	草稿の完成	
13	パネル作り（号数選択）	
14	制作２	題材取材（写生）とテーマの研究
15	〃	〃
16	合評会	

後　期

1	制作２	〃
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	合評会	研究発表・相談会
6	小下図の研究	
7	草稿の完成	
8	パネル作り（号数選択）	
9	制作３　　美術館鑑賞	題材取材（写生）とテーマの研究
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃　　学外講師による特別講師	〃
15	〃	〃
16	合評会	研究発表・相談会

教科書テキスト参考書	美術全集
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。
備考	

専攻科2年次　　演習　6単位　通年

科目名	専攻演習Ⅲ（立体造形演習Ⅲ）	担当者	中　川　賀　照
授業概要	本学3号館前のロダン作「青銅時代」の修復保存の実習を通じて、モデリング技法やその素材の一つであるブロンズ彫刻についての理解を深めます。また、主にテラコッタ技法を用い、各自のテーマに応じた立体表現を追求していきます。		
到達目標	・ブロンズ彫刻の簡単な保存修復ができる。 ・モデリング技法の中のテラコッタによる造形表現を理解し、説明することができる。 ・テラコッタ技法を応用した作品を造形することができる。		
授業計画	前　期 1　○ モデリング技法とその素材 2・3　○ ブロンズ彫刻の修復保存 4　○ 課題Ⅰ（テラコッタ造形） 5　・テーマの設定 6　・エスキース 7～11　・制作 12　・乾燥 13　・焼成 14　・成型・彩色 15　・合評 16　○ まとめ 後　期 1　○ 課題Ⅱ（自由造形） 2　・テーマの設定 3・4　・エスキース 5～14　・制作 15　・合評 16　○ まとめ		
教科書テキスト参考書	適宜、プリントや資料を配布。		
評価の方法	発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などの総合的評価。		
実務経験	大学や県民講座の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導する。		
備　考	実習に適した服装、実習の準備や片付けの励行。		

専攻科2年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅲ（油彩制作Ⅲ）	担当者	小　笠　美　華
授業概要	人体を含む自然の観察を出発点とし、線、面、色彩、構図、空間表現、画材料の効果等、様々な造形要素を工夫して制作実習を重ねることで絵画表現を学ぶ。 個人指導と合評を行い、自作を客観的に見る力がつくよう指導する。		
到達目標	・目指す表現に合う画材料を選び、工夫して使うことが出来る。 ・造形要素を駆使し、各自の絵画空間を作ることが出来る。		
授業計画	前　期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16　まとめ、評価 後　期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16　まとめ、評価		女性、男性、群像の人体をモデルに、観察を基に、 対象とその存在する空間の表現を追求する。 人物、静物、風景、あるいは自己の内面にも対象を広げ、さまざまな画材料を 工夫して用い、二作品以上を制作
教科書 テキスト 参考書	随時紹介。		
評価の方法	授業への取り組み、作品を総合的に評価。		
実務経験	個展、グループ展等の展覧会での作品発表や受賞歴など作家としての活動経験を活かし、描く対象を観察、把握して絵画表現していくことを具体的に指導する。		
備　考			

専攻科2年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅲ（日本画制作Ⅷ・Ⅸ）	担当者	広岡　真彩彦・石股　　昭
授業概要	自己の設定したテーマを造形的な観点から吟味させ、そのテーマに基づく最も適切なモチーフを選定し独自な表現へと発展させる。 自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の段階で、制作テーマの選定、画面の構成、色調等、今までに学習した表現技法を最大限駆使して、意図する内容を最も効果的に表現できているかをそれぞれ厳しく追及し、高度な表現へと深まるよう適切な指導を行い制作する。		
到達目標	・テーマに基づく最も適切な表現を小下図を通して研究する。 ・表現技法や材料を生かした作品を完成させる。 ・自らの作品について客観的に理解し述べることができる。		
授業計画	前　期 1　オリエンテーション 2　小下図の研究 3　草稿の完成 4　パネル作り（号数選択） 5　制作１ 6　〃 7　〃 8　〃 9　〃 10　〃 11　合評会 12　小下図の研究 13　草稿の完成 14　パネル作り（号数選択） 15　制作２ 16　〃 後　期 1　制作２ 2　〃 3　〃 4　〃 5　合評会 6　小下図の研究 7　草稿の完成 8　パネル作り（号数選択） 9　制作３ 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　合評会		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、作家の資質として必要な作品分析力と表現力を高める指導を行う。		
備　考			

専攻科2年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅲ（立体造形実習Ⅲ）	担当者	富　松　留　幹
授業概要	専攻実習Ⅰ・Ⅱで修得した立体造形の知識や技術を駆使して、より高次元な課題作品の制作を実践する。 専攻メディア以外の素材研究を積極的に行い、ミクストメディアな造形も実践する。		
到達目標	・自己のイメージを立体造形として表現出来る“造形力”を修得して実践する事ができる。 ・様々な支持体を研究して表現のアイデアが増す事で、よりオリジナリティな造形ができる。		
授業計画	前　期 1　授業概要の説明と導入 2　①モデリング“人物横顔レリーフ” 3　★観察とアイデアスケッチ 4　★フォルモ粘土による制作 5　★作品講評 6 7　②植物モチーフによるキューブデザイン 8　★観察とアイデアスケッチ 9　★プレゼンシート作成（A3 サイズ） 10　★フォルモ粘土による制作 11　★彩色用具による細密描写 12　★作品講評 13 14 15 16 後　期 1　③デフォルメの研究 2　★観察とアイデアスケッチ 3　★素材研究 4　★作品講評 5 6 7 8　④自主研究テーマ課題 9　★テーマ設定と研究 10　★自由メディアによる制作 11 12 13 14 15 16　★作品講評		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	授業実習態度と提出作品の独創性・完成度による総合評価で行う。		
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を教える。個性豊かな独創的発想と造形素材の研究を指導する。		
備　考			

専攻科2年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅳ（油彩制作Ⅸ（古典技法））	担当者	小　笠　美　華
授業概要	テンペラ画の模写に取り組み、支持体製作、地塗り、メディウム、絵具の調合等の実習を通して、絵画の物質的な成り立ちを学ぶ。 また、制作過程において、技法の歴史を学び、特性を理解しながら技術を習得する。		
到達目標	技法の特性と表現が密接に関係していることについて作品を挙げて説明できる。 学習した知識や技術を各自の作品の展開につなげていけるようになる。		
授業計画	テンペラ画 前　期 1　模写作品選定、DVD 鑑賞 2　作品研究 3　支持体製作　下絵制作 4　〃 5　石膏地塗り 6　〃 7　地塗り調整 8　下絵転写 9　箔下とのこ塗り 10　とのこ磨き 11　金箔置き 12　金箔磨き、装飾 13　描画 14　〃 15　〃 16　〃 後　期 1　作品研究、制作の計画 2　描画 3　〃 4　〃 5　〃 6　〃 7　〃 8　〃 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　まとめ、評価		
教科書 テキスト 参考書	参考書：『黄金背景テンペラ画の技法』田口安男（著）、『黄金テンペラ技法』紀井利臣（著） 『画家のための処方箋』ロバート・マッセイ（著）山添耕治（訳）		
評価の方法	制作への取り組み、作品で総合的に評価。		
実務経験	個展、グループ展等の展覧会での作品発表や画材研究など作家としての活動経験を活かし、画材料の取り扱いや技法の特性を具体的に指導する。		
備　考	デリケートな仕事なので、画材料、道具の丁寧な使用と、制作室を使いやすく清潔に保つことを心がけること。		

専攻科2年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅳ（日本画制作Ⅻ・ⅩⅢ）	担当者	辻野　宗一・大槻　睦子
授業概要	自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の制作に合わせ、自己の設定したテーマを端的に表す小品作品の制作を行う。大作作品の表現でつかみづらい全体の構成力や独自な表現の可能性を探る。表現技術においても小品に応じた工夫が必要である。 また、日本画材料の特性を生かした新しい可能性の表現を探る。		
到達目標	・テーマに基づくイメージを小下図に表現することができる。 ・適切な技法を用いて小品作品を完成させる。 ・日本画材の表現方法を研究し発表することができる。		
授業計画	前　期 1　オリエンテーション 2　小下図の研究 3　〃 4　〃 5　草稿 6　〃 7　パネル作り 8　小品制作　2点 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　合評会 後　期 1　オリエンテーション 2　日本画の材料等の研究（新しい表現方法の研究） 3　〃 4　〃 5　研究発表 6　進級制作　小下図の研究 7　草稿の完成 8　パネル作り（号数選択） 9　制作 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　合評会		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、プロの作家として必要な個人的な表現力、小品制作や習作を含めた作品制作の指導を行う。		
備考			

専攻科2年次　　実習　4単位　通年

科目名	専攻実習Ⅳ（立体造形実習Ⅳ）	担当者	中　川　賀　照
授業概要	専攻実習Ⅰ～Ⅲで学んだ立体造形の技法を基に、各自が設定したテーマに応じて立体表現を追求していきます。		
到達目標	・テラコッタ等による造形表現を理解し、作品に応用することができる。 ・自分の興味関心にあった材料や技法を考えることができる。 ・長期間追求できる題材やテーマを設定することができる。		
授業計画	前　期 1　○ 課題Ⅰ（モデリングによる造形） 2・3　・テーマの設定 4～6　・エスキース 7～14　・制作 15　・合評 16　○ まとめ 後　期 1　○ 課題Ⅱ（自由造形） 2　・テーマの設定 3・4　・エスキース 5～14　・制作 15　・合評 16　○ まとめ		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントや資料を配布。		
評価の方法	発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などの総合的評価。		
実務経験	大学や県民講座の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導する。		
備　考	実習に適した服装、実習の準備や片付けの励行。		

D 群 科 目　1回生　■実技演習･実技実習

1年次　演習　6単位　通年

科目名	実技演習 I	担当者	高橋 顕児・大槻 睦子・西岡 幸二 大塩　正・近藤 卓浪・佐々木 徹
授業概要	表現のモチーフとなる対象を正確に観察することができ、かつ理解を深めることで自己の表現が十分に発揮できるようにする。		
到達目標	専門的な思考法と教養を修得して、自己の芸術的表現ができる能力や姿勢が身についている。		

授業計画

洋画

前期	後期
1回　オリエンテーション	1回　静物、人物、風景より 30 号程度
2〜3回　風景　油彩 10 号	2回　制作 エスキース
3〜5回　人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30 号	3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
6回　人体 男性 動くポーズ デッサン	4回　制作 エスキース
7回　人体 男性 固定ポーズ デッサン	5回　講評会
8回　講評会	6〜12回　制作 100 号以上一点 50 号以上一点以上
9〜10回　人体 男性 固定ポーズ 油彩 30 号	13回　合同講評会
11回　人体 二人 組ポーズ デッサン	14回　制作
12〜14回　偶像着衣 デッサン 油彩 30 号	15回　審査　判定
15回　合同講評会	16回　まとめ
16回　自画像 10 号	

日本画

前期	後期
1回　オリエンテーション	1〜4回　制作 題材取材(写生)とテーマ研究
2回　小下図の研究	5回　合評会 研究発表・相談会
3〜4回　草稿	6回　修了制作 小下図の研究
5〜9回　制作 題材取材(写生)とテーマ研究	7回　草稿の完成
10回　合評会 研究発表・相談会	8回　パネル作り(号数選択)
11回　小下図の研究	9〜15回　制作 美術館鑑賞
12回　草稿の完成	題材取材(写生)とテーマ研究
13回　パネル作り(号数選択)	学外講師特別講義
14〜15回　制作 題材取材(写生)とテーマ研究	16回　合評会 研究発表・相談会
16回　合評会　〃	

デザイン

前期	後期
1回　映像制作基礎	1〜2回　写真撮影
2回　映像プランの立て方	3〜7回　3D モデリング
3〜5回　映像コンテ作成	8〜10回　3D アニメーション
6〜7回　撮影準備	11回　3D 作品合評
8〜9回　撮影	12〜15回　制作指導
10〜11回　編集	16回　まとめ
12〜13回　録音ミキシング	
14回　作品講評	
15〜16回　写真撮影	

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作Ⅰ
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法Ⅰ（素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　自主研究テーマ課題の制作
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

1年次　演習　4単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技演習Ⅱ</td><td>担当者</td><td colspan="2">小笠 美華・松浦 直子・西岡 幸二
河野 榮一・近藤 卓浪・富松　暖</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">身辺にある様々な造形メディアを研究することにより、自己の表現領域が広がり、表現形態も多様化するようにする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">造形表現領域における多様なメディアを認知して、それぞれの特性を生かすことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2回　制作Ⅰ　50号 エスキース
3回　制作Ⅰ　50号 制作
4～7回　制作Ⅰ　50号
8回　講評会
9～15回　制作Ⅰ　50号　完成
16回　合同講評会</td><td colspan="2">後　期
1回　制作 エスキース
2回　プランチェック
3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
4回　制作①100号以上 エスキース
5～7回　制作①100号以上 制作
8回　講評会
9～10回　制作①100号以上 制作 完成
11回　制作②50号以上 エスキース
12～14回　制作②50号以上 制作 完成
15回　合同講評会
16回　まとめ</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td colspan="2">前　期
1回　授業ガイダンス・図版による作品鑑賞と模写制作1のための作品選定
2回　制作手順確認、制作準備
3～5回　模写制作1-1～3
6回　学外研修(古画鑑賞)
7～15回　模写制作1-4～12
16回　模写作品裏打ち</td><td colspan="2">後　期
1回　模写制作2のための作品選定・制作手順確認、制作準備(紙の準備等)
2～4回　模写制作2-1～3
5回　学外研修
6～12回　模写制作2-4～10
13回　模写制作2-11 展示計画
14回　模写制作2-12
15～16回　模写作品裏打ち 表装仕上げ1-2</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td colspan="2">前　期
1回　映像制作基礎
2回　映像プランの立て方
3～5回　映像コンテ作成
6～7回　撮影準備
8～9回　撮影
10～11回　編集
12～13回　録音ミキシング
14回　作品講評
15～16回　写真撮影</td><td colspan="2">後　期
1～2回　写真撮影
3～7回　3Dモデリング
8～10回　3Dアニメーション
11回　3D作品合評
12～15回　制作指導
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作Ⅰ
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法Ⅰ（素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　授業内容“花器”課題導入
2～3 回　リサーチ開始
4 回　リサーチ提出
5～7 回　デザイン検討
8 回　デザインシート提出
9～14 回　プロトタイピング開始
15 回　プレゼンシート作成開始
16 回　プレゼンシート提出・まとめ・講評</td><td>後　期
1 回　授業内容“3D クラフティング”課題導入
2 回　ソフトウェア概念
3 回　インターフェイス
4～7 回　3D 基礎モデリングⅠ
8～15 回　プロブレムソリューション課題導入
16 回　まとめ・講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の到達度を合評会等で評価し、演習課題やテーマへの取り組む姿勢も含めて総合評価する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

1年次　演習　4単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技演習Ⅲ</td><td>担当者</td><td>福西 三千春・松浦 直子・西岡 幸二
松本 康代・外村 達彦・宮里 茂治</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="4">専攻するメディアの特性と可能性を追求して、自己表現の支持体として修得できるようにする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="4">洗練された高度な技術・技法を修得して、表現支持体を自在に活用できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td>前　期
1回　オリエンテーション
2回　制作Ⅰ　50号 エスキース
3回　制作Ⅰ　50号 制作
4～7回　制作Ⅰ　50号
8回　講評会
9～15回　制作Ⅰ　50号 完成
16回　合同講評会</td><td colspan="2">後　期
1～2回　エスキース　プランチェック
3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
4回　制作① 100号以上 エスキース
5～7回　制作① 100号以上 制作
8回　講評会
9～10回　制作① 100号以上 制作 完成
11回　制作② 50号以上 エスキース
12～14回　制作② 50号以上 制作 完成
15回　合同講評会
16回　まとめ</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td>前　期
1回　授業ガイダンス・図版による作品鑑賞と模写制作1のための作品選定
2回　制作手順確認、制作準備
3～5回　模写制作1-1～3
6回　学外研修(古画鑑賞)
7～15回　模写制作1-4～12
16回　模写作品裏打ち</td><td colspan="2">後　期
1回　模写制作2のための作品選定・制作手順確認、制作準備(紙の準備等)
2～4回　模写制作2-1～3
5回　学外研修
6～12回　模写制作2-4～10
13回　模写制作2-11 展示計画
14回　模写制作2-12
15～16回　模写作品裏打ち 表装仕上げ1-2</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td>前　期
1回　地域プロジェクト概要
2～4回　デザインプランニング
5～8回　企画デザイン開発
9回　プレゼンテーション
10～12回　イベントプランニング
13～16回　イベント成果物</td><td colspan="2">後　期
1～4回　イベント参加・展示
5～7回　イベント体験レポート
8～9回　企画書作成
10回　プレゼンテーション
11～15回　イベント体験
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作Ⅰ
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法Ⅰ（素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　課題 1.課題 2
2 回　コンセプト及びデザイン研究
3 回　デザインチェック
4～5 回　図面、模型制作、素材研究
6～14 回　制作
15 回　ディスプレイ研究
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　課題 3
2 回　コンセプト及びデザイン研究
3 回　デザインチェック
4～5 回　図面、模型制作、素材研究
6～14 回　制作
15 回　ディスプレイ研究
16 回　作品講評　合評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の到達度を合評会等で評価し、表現支持体の活用、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

1年次　演習　4単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技演習Ⅳ</td><td>担当者</td><td colspan="2">小笠 美華・神澤 孝宣
河野 榮一・外村 達彦・宮里 茂治</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">作品に込めたコンセプトやメッセージを社会に向け強く発信できるようにプレゼンテーション能力を高める。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">自己の芸術的表現メッセージを他者や社会に向けて十分に発信ができるとともに、コミュニケーションが図れる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td colspan="2">前　期
1回　模写作品選定
2～4回　支持体製作 下絵制作
5～6回　石膏地塗り
7回　地塗り調整
8回　下絵転写
9回　箔下とのこ塗り
10回　とのこ磨き
11回　金箔置き
12回　金箔磨き、装飾
13～16回　描画</td><td colspan="2">後　期
1回　作品研究、制作の計画
2～15回　描画
16回　まとめ、評価</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2回　自己作品の振り返りと発表形態のリサーチ
3回　リサーチに基づいたセルフプロデュースの企画・アイデア
4回　企画の再考とスケジューリング
5～11回　制作 1～7
12～15回　展示・発表準備 1～4
16回　模擬展示発表を通じた前期制作のまとめと振り返り</td><td colspan="2">後　期
1回　自主企画・アイデア
2回　リサーチ メディア研究
3回　リサーチをもとにした企画・アイデアの再考
4～7回　制作 ネームラフ 1～3
8～12回　制作 コンテンツ制作
13～14回　仕上げ・編集 1～2
15回　アウトプット
16回　後期制作のまとめと振り返り</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作 I
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法 I （素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　課題 1.課題 2
2 回　コンセプト及びデザイン研究
3 回　デザインチェック
4～5 回　図面、模型制作、素材研究
6～14 回　制作
15 回　ディスプレイ研究
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　課題 3
2 回　コンセプト及びデザイン研究
3 回　デザインチェック
4～5 回　図面、模型制作、素材研究
6～14 回　制作
15 回　ディスプレイ研究
16 回　作品講評　合評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">５つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

1年次　実習　4単位　通年

科目名	実技実習Ⅰ	担当者	小笠 美華・石股　昭・関根 祐司 大塩 正・近藤 卓浪・佐々木 徹
授業概要	モチーフ（主題）となる対象物に広く関心を向けて、スケッチ、デッサンやデザインなどの表現方法の創作工夫により、客観的観察力に基づく描写能力の向上を図る。		
到達目標	目的に沿った表現活動のための自由で幅広い構想力をもち、作品表現の具体化を図る。		

授業計画

	前期	後期
洋画	1回　オリエンテーション 2〜3回　風景　油彩10号 3〜5回　人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩30号 6回　人体 男性 動くポーズ デッサン 7回　人体 男性 固定ポーズ デッサン 8回　講評会 9〜10回　人体 男性 固定ポーズ 油彩30号 11回　人体 二人 組ポーズ デッサン 12〜14回　偶像着衣 デッサン 油彩30号 15回　合同講評会 16回　自画像10号	1回　静物、人物、風景より 30号程度 2回　制作 エスキース 3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ) 4回　制作 エスキース 5回　講評会 6〜12回　制作 100号以上一点 50号以上一点以上 13回　合同講評会 14回　制作 15回　審査　判定 16回　まとめ
日本画	1回　大作制作1(小下図・草稿 完成) 2〜9回　大作制作1(号数選択) 10回　合評会 11回　大作制作2(小下図・草稿 完成) 12〜15回　大作制作2(号数選択) 16回　合評会	1〜4回　大作制作2 5回　合評会 6回　大作制作3(小下図・草稿 完成) 7〜15回　大作制作3(号数選択) 16回　合評会
デザイン	1回　ガイダンス 2回　課題テーマによる着想実習 3〜4回　情報収集 5〜7回　コンセプトシートの作成 8〜15回　制作 16回　総括	1回　自主研究テーマによる制作 2〜3回　テーマ設定のための情報収集 4〜5回　コンセプトシートの作成 6〜15回　制作 16回　総括

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作Ⅰ
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法Ⅰ（素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出
2 回　テーマ設定･デザイン研究･素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　自主研究テーマ課題の制作
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="2">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="2">作品の構想や達成度及び制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="2">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

1年次　実習　4単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技実習Ⅱ</td><td>担当者</td><td>小笠 美華・辻野 宗一・ブラッキー中島
大塩　正・近藤 卓浪・富松 留幹</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="4">表現のテーマ設定や可能性を研究して、メディアを通じてイメージの具現化を実習する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="4">表現としてのコミュニケーション手段を理解し、造形センスの練磨による独創的な作品表現ができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td>前　期
1回　模写作品選定、DVD鑑賞
2回　作品研究
3～4回　支持体制作　下絵制作
5～6回　石膏地塗り
7回　地塗り調整
8回　下絵転写
9回　箔下とのこ塗り
10回　とのこ磨き
11回　金箔置き
12回　金箔磨き、装飾
13～16回　描画</td><td colspan="2">後　期
1回　作品研究、制作の計画
2～15回　描画
16回　まとめ、評価</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td>前　期
1回　オリエンテーション
2～4回　小下図の研究
5～6回　草稿
7回　パネル作り
8～15回　小品制作　2点
16回　合評会</td><td colspan="2">後　期
1回　オリエンテーション
2～4回　日本画の材料等の研究
(新しい表現方法の研究)
5回　研究発表
6回　進級制作　小下図の研究
7回　草稿の完成
8回　パネル作り(号数選択)
9～15回　制作
16回　合評会</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td>前　期
1～4回　オリエンテーション
インタビューからデザインへ
5回　合評・プレゼンテーション
6～15回　デザイン的思考・プロジェクトテーマ選定
実習「プロジェクト」
16回　前期のまとめ（中間発表）後期に向けてのガイダンス</td><td colspan="2">後　期
1～15回　実習「プロジェクト」
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作Ⅰ
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法Ⅰ（素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　授業概要の説明と導入
2 回　①ﾒﾃﾞｨｱ研究/灯りをﾃﾞｻﾞｲﾝする
3～15 回　★デザインチェック
★プレゼンシート作成
（A3 サイズ）
★モデル制作
16 回　★作品講評</td><td>後　期
1 回　ﾒﾃﾞｨｱ研究/“Shoes Box”
空間造形・音をデザインする
2 ～15 回　★デザインチェック
★プレゼンシート作成
（A3 サイズ）
★モデル制作
16 回　★作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の達成度や制作に取り組む姿勢、表現としてのコミュニケーション手段の理解度などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

1年次　実習　3単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技実習Ⅲ</td><td>担当者</td><td>岸中 延年・大槻 睦子・ブラッキー中島
松本 康代・中井 由希子・村松 佳優</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="4">造形表現のためのメディア技術力の練磨と、より高次元な技術の修得を目指して実習する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="4">様々な表現メディアの知識と技能をもち、個性ある創作活動ができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td>前　期
1回　制作１アクアチント説明
（歴史、技法）版の準備
2回　下絵制作　テーマ「物と私」
（下絵提出）
3回　下絵を版に転写　描画　腐食
[エッチング]
4回　描画　腐食[アクアチント]
5回　描画　腐食 刷り（試し刷り提出）
6回　本刷り　（本刷り提出）
7回　制作２「アクアチントを使った表現」下絵制作
8~9回　下絵制作
10 回　版下を版に転写　製版
11～15回　製版（試し刷り提出）
16回　本刷り　合評（本刷り提出）</td><td colspan="2">後　期
1回　制作３自由制作　版の準備
2～5回　下絵制作（下絵提出）
6～15回　製版（試し刷り提出）
16回　本刷り　合評（本刷り提出）</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td>前　期
1回　大作制作 1(小下図・草稿 完成)
2～9回　大作制作 1(号数選択)
10回　合評会
11回　大作制作 2(小下図・草稿 完成)
12～15回　大作制作 2(号数選択)
16回　合評会</td><td colspan="2">後　期
1～4回　大作制作 2
5回　合評会
6回　大作制作 3(小下図・草稿 完成)
7～15回　大作制作 3(号数選択)
16回　合評会</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td>前　期
1～4回　オリエンテーション
インタビューからデザインへ
5回　合評・プレゼンテーション
6～15回　制作実習Ⅰテーマ選定
地域・社会における様々な問題点の調査
中間報告(プレゼンテーション)
16回　テーマ決定</td><td colspan="2">後　期
1～14回　制作Ⅱコミュニティデザイン
デザインによる問題解決へのアプローチ
15回　合評・プレゼンテーション
(もしくは展示等)
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作Ⅰ
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法Ⅰ（素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　授業内容説明（授業の進め方、一般的注意、成績評価の説明）
2～5 回　各人の過去の作品ーデザインを考察、ポートフォリオ作成の継続、作品のデジタル化、画像処理演習
6～15 回　展示会 DM 制作－Illustrator、レイアウト演習
16 回　まとめ　展示講評</td><td>後　期
1 回　授業説明
2～7 回　後期作品制作
エスキースとプレゼンテーション
8～12 回　ポートフォリオ作成の継続・大学祭コンセプトシート作成
13～15 回　進級制作用プレゼンテーションシート制作
16 回　まとめ　展示講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の理解度、表現力、関心度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

1年次　実習　3単位　通年

科目名	実技実習Ⅳ	担当者	生島 浩・井手本 貴子・ﾌﾞﾗｻﾞﾄﾝ ﾀﾞﾝｶﾝ 石黒 紀子・中井 由希子・片山 知佳
授業概要	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。		
到達目標	様々な表現メディアの体験を通して、多様な表現方法による創作活動ができる。		

授業計画

洋画

前期		後期	
1回	オリエンテーション	1回	静物、人物、風景より 30 号程度
2～3回	風景　油彩 10 号	2回	制作 エスキース
3～5回	人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30 号	3回	学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
		4回	制作 エスキース
6回	人体 男性 動くポーズ デッサン	5回	講評会
7回	人体 男性 固定ポーズ デッサン	6～12回	制作 100 号以上一点 50 号以上一点以上
8回	講評会		
9～10回	人体 男性 固定ポーズ 油彩 30 号	13回	合同講評会
11回	人体 二人 組ポーズ デッサン	14回	制作
12～14回	偶像着衣 デッサン 油彩 30 号	15回	審査　判定
15回	合同講評会	16回	まとめ
16回	自画像 10 号		

日本画

前期		後期	
1回	大作制作 1(小下図・草稿 完成)	1～4回	大作制作 2
2～9回	大作制作 1(号数選択)	5回	合評会
10回	合評会	6回	大作制作 3(小下図・草稿 完成)
11回	大作制作 2(小下図・草稿 完成)	7～15回	大作制作 3(号数選択)
12～15回	大作制作 2(号数選択)	16回	合評会
16回	合評会		

デザイン

前期		後期	
1回	ガイダンス・オリエンテーション	1回	クリエイティブ研究 プロジェクト 2
2～3回	活動を検討：アイディアをリサーチ	2回	基本リサーチ
4～5回	活動を検討：提案・相談	3～4回	準備
6回	クリエイティブ研究 プロジェクト 1	5～7回	必要な作業・制作
		8～10回	イベントに参加
7回	基本リサーチ	11～12回	活動後まとめ・アーカイブ
8～10回	準備	13回	現時点確認
11～13回	必要な作業・制作	14回	プレゼンテーション準備
14回	現時点確認	15回	プレゼンテーション
15回	プレゼンテーション	16回	授業まとめ
16回	あとめ		

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～5 回　自主制作Ⅰ
（各種成形技法を用いた制作）
6～9 回　自主制作Ⅱ
（抽象-オブジェ-による制作）
・オブジェ
10～12 回　自主制作Ⅲ
(用と美を考える制作)・現代技法、伝統技法
13～16 回　自主制作Ⅳ（基礎立体制作）
・陶彫（ミニアチュール）</td><td>後　期
1～2 回　表現技法Ⅰ（素地による表現）
3～4 回　表現技法Ⅱ（釉薬による表現）
5～6 回　表現技法Ⅲ（焼成による表現）
7 回　学外実技研修講座
8 回　・美術館、展覧会
9 回　・穴窯、登窯の研修
10 回　・その他の研修
11～16 回　進級制作</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずる)
自由制作
研究テーマの追及
発想の展開
技法研究
制作のための試作
学外研究</td><td>後　期
1～15 回　自由制作
研究テーマの追及
学外研究
16 回　総合合評</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出
1 回
2 回　テーマ設定･デザイン研究･素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　自主研究テーマ課題の制作
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">それぞれの表現メディア技術の到達度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

D 群 科 目　2回生　■実技演習･実技実習

2年次　演習　6単位　通年

科目名	実技演習Ⅴ	担当者	高橋 顕児・中尾 壽男・西岡 幸二 大塩　正・近藤 卓浪・佐々木　徹
授業概要	造形作品と社会の関わりを理解して、アクションの必然性と重要性を学習し演習する。		
到達目標	芸術と社会の相関性を理解し、より高次元な表現能力を修得し、発信できる。		

授業計画

洋画

前期		後期	
1回	オリエンテーション	1回	制作につながる作品 30 号程度
2回	風景　油彩 10 号	2回	制作エスキース
3～5回	人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50 号	3回	学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
6回	人体 男性 動くポーズ デッサン	4回	制作 100 号以上二点以上
7回	人体 男性 固定ポーズ デッサン	5回	講評会
8回	講評会	6～12回	制作
9～10回	人体 男性 固定ポーズ 油彩 50 号	13回	合同講評会
11～14回	人体 二人 組ポーズ デッサン 油彩 50 号	14回	制作　完成度を高める
15回	合同講評会	15回	審査　判定
16回	自画像 10 号	16回	まとめ

日本画

前期		後期	
1回	オリエンテーション	1～4回	制作
2回	小下図の研究	5回	合評会
3～4回	草稿	6回	修了制作 小下図の研究
5～9回	制作	7回	草稿の完成
10回	合評会	8回	パネル作り(号数選択)
11回	小下図の研究	9～15回	制作 美術鑑賞 学外講師特別講義
12回	草稿の完成	15回	合評会
13回	パネル作り(号数選択)		
14～15回	制作		
16回	合評会		

デザイン

前期		後期	
1回	CM 商品分析	1～4回	3D アニメーション
2回	CM プランの立て方	5回	3D 作品合評
3回	CM コンテ作成	6～7回	イベントプランニング
4～5回	撮影準備	8～9回	イベント映像
6～7回	撮影	10～11回	企画書の作り方
8～9回	編集	12回	プレゼンテーションの仕方
10回	ナレーション録音、音楽、効果音	13～15回	制作指導
11回	作品講評	16回	まとめ
12～16回	3D モデリング		

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～7 回　自主研究Ⅰ
8～12 回　自主研究Ⅱ
13～16 回　自主研究Ⅲ
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td><td>後　期
1～2 回　自主研究Ⅲ
3～8 回　自主研究Ⅳ
9～16 回　修了制作
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 年次に準ずる)
自由制作
・テーマと個性的表現の研究
・コンセプトと発想の展開
・学外研究</td><td>後　期
1～16 回　自由制作
・研究テーマの追及
・学外研究</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　自主研究テーマ課題の制作
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の到達度を合評会等で評価するとともに、学外展での発信や授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

2年次　演習　6単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技演習Ⅵ</td><td>担当者</td><td colspan="2">生島　浩・大槻 睦子・ﾌﾞﾗｻﾞﾄﾝ ﾀﾞﾝｶﾝ
河野　榮一・近藤 卓浪・宮里 茂治</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">制作した作品を通して社会とコミュニケーションがとれるように、様々な方法と手段を研究する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">作品を体系化して、現代社会の多様な領域に向けて、自己の能力を明確に、より強く発信できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2回　風景　油彩 10 号
3～5回　人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50 号
6回　人体 男性 動くポーズ デッサン
7回　人体 男性 固定ポーズ デッサン
8回　講評会
9～10回　人体 男性 固定ポーズ 油彩 50 号
11～14回　人体 二人 組ポーズ デッサン 油彩 50 号
15回　合同講評会
16回　自画像 10 号</td><td colspan="2">後　期
1回　制作につながる作品 30 号程度
2回　制作エスキース
3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
4回　制作 100 号以上二点以上
5回　講評会
6～12回　制作
13回　合同講評会
14回　制作　完成度を高める
15回　審査　判定
16回　まとめ</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2～4回　小下図の研究
5～6回　草稿
7回　パネル作り
8～15回　小品制作　2点
16回　合評会</td><td colspan="2">後　期
1回　オリエンテーション
2～4回　日本画の材料等の研究 (新しい表現方法の研究)
5回　研究発表
6回　進級制作　小下図の研究
7回　草稿の完成
8回　パネル作り(号数選択)
9～15回　制作
16回　合評会</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td colspan="2">前　期
1回　ガイダンス・オリエンテーション
2～3回　活動を検討：アイディアをリサーチ
4～5回　活動を検討：提案・相談
6回　クリエイティブ研究 プロジェクト 1
7回　基本リサーチ
8～10回　準備
11～13回　必要な作業・制作
14回　現時点確認
15回　プレゼンテーション
16回　まとめ</td><td colspan="2">後　期
1回　クリエイティブ研究 プロジェクト 2
2回　基本リサーチ
3～4回　準備
5～7回　必要な作業・制作
8～10回　イベントに参加
11～12回　活動後まとめ・アーカイブ
13回　現時点確認
14回　プレゼンテーション準備
15回　プレゼンテーション
16回　授業まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～7 回　自主研究Ⅰ
8～12 回　自主研究Ⅱ
13～16 回　自主研究Ⅲ
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td><td>後　期
1～2 回　自主研究Ⅲ
3～8 回　自主研究Ⅳ
9～16 回　修了制作
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 年次に準ずる)
自由制作
・テーマと個性的表現の研究
・コンセプトと発想の展開
・学外研究</td><td>後　期
1～16 回　自由制作
・研究テーマの追及
・学外研究</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　課題 1.課題 2
2 回　コンセプト及びデザイン研究
3 回　デザインチェック
4～5 回　図面、模型制作、素材研究
6～14 回　制作
15 回　ディスプレイ研究
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　課題 3
2 回　コンセプト及びデザイン研究
3 回　デザインチェック
4～5 回　図面、模型制作、素材研究
6～15 回　ディスプレイ研究
16 回　作品講評　合評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の到達度を合評会等で評価し、周辺社会への働きかけや授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

2年次　演習　4単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技演習Ⅶ</td><td>担当者</td><td colspan="2">小笠 美華・松浦 直子・西岡 幸二
松本　康代・外村 達彦・富松　暖</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">自己の表現について到達目標と授業計画に基づいて、高い完成度で造形表現できるようにする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">各系列において修得した教養・専門知識と練磨した芸術的感性をもとに、現代社会で才能を十分に発揮し、活躍できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2回　制作Ⅰ　50号 エスキース
3回　制作Ⅰ　50号 制作
4～15回　制作Ⅰ　講評会 完成
16回　合同講評会</td><td colspan="2">後　期
1回　制作　エスキース
2回　制作　エスキース　プランチェック
3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
4～14回　制作　油彩100号以上2点以上
講評会
15回　合同講評会
16回　まとめ</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2回　小下図の研究
3～4回　草稿
5～9回　制作
10回　合評会
11回　小下図の研究
12回　草稿の完成
13回　パネル作り(号数選択)
14～15回　制作
16回　合評会</td><td colspan="2">後　期
1～4回　制作
5回　合評会
6回　修了制作 小下図の研究
7回　草稿の完成
8回　パネル作り(号数選択)
9～15回　制作 美術鑑賞
学外講師特別講義
15回　合評会</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td colspan="2">前　期
1回　CM商品分析
2回　CMプランの立て方
3回　CMコンテ作成
4・5回　撮影準備
6・7回　撮影
8・9回　編集
10・11回　ナレーション録音、音楽、効果音
作品講評
12～16回　3Dモデリング</td><td colspan="2">後　期
1～4回　3Dアニメーション
5回　3D作品合評
6～7回　イベントプランニング
8～9回　イベント映像
10～11回　企画書の作り方
12回　プレゼンテーションの仕方
13～15回　制作指導
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備（オリエンテーション）
3～7 回　自主研究Ⅰ
8～12 回　自主研究Ⅱ
13～16 回　自主研究Ⅲ
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td><td>後　期
1～2 回　自主研究Ⅲ
3～8 回　自主研究Ⅳ
9～16 回　修了制作
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 年次に準ずる)
自由制作
・テーマと個性的表現の研究
・コンセプトと発想の展開
・学外研究</td><td>後　期
1～16 回　自由制作
・研究テーマの追及
・学外研究</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　授業内容“サイン計画”課題導入
2～3 回　リサーチ開始
4 回　リサーチ提出
5～7 回　リサーチ検討
8 回　デザインシート提出
9～14 回　プロトタイピング開始
15 回　プレゼンシート作成開始
16 回　プレゼンシート提出
まとめ・講評</td><td>後　期
1 回　授業内容“リプロダクション”課題導入
2 回　リサーチ開始
3 回　制作物候補リスト作成
4 回　制作物決定　再リサーチ開始
5 回　体現化
6～10 回　第一次プロトタイプ制作開始
11～14 回　第二次プロトタイプ制作開始
15 回　撮影
16 回　まとめ</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

2年次　実習　4単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技実習Ⅴ</td><td>担当者</td><td colspan="2">小笠 美華・石股　昭・関根 祐司
大塩　正・近藤 卓浪・佐々木 徹</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">実技と理論の研究をとおして、対象物に対する客観的分析能力をもち、新たな創造の力を身に付けている。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2回　風景　油彩 10 号
3～5回　人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50 号
6回　人体 男性 動くポーズ デッサン
7回　人体 男性 固定ポーズ デッサン
8回　講評会
9～10回　人体 男性 固定ポーズ 油彩 50 号
11～14回　人体 二人 組ポーズ デッサン 油彩 50 号
15回　合同講評会
16回　自画像 10 号</td><td colspan="2">後　期
1回　制作につながる作品 30 号程度
2回　制作エスキース
3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
4回　制作 100 号以上二点以上
5回　講評会
6～12回　制作
13回　合同講評会
14回　制作　完成度を高める
15回　審査　判定
16回　まとめ</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td colspan="2">前　期
1回　大作制作 1(小下図・草稿 完成)
2～9回　大作制作 1(号数選択)
10回　合評会
11回　大作制作 2(小下図・草稿 完成)
12～15回　大作制作 2(号数選択)
16回　合評会</td><td colspan="2">後　期
1～4回　大作制作 2
5回　合評会
6回　大作制作 3(小下図・草稿 完成)
7～15回　大作制作 3(号数選択)
16回　合評会</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td colspan="2">前　期
1回　ガイダンス テーマ設定について
2～4回　テーマ設定（設定したテーマの周辺情報収集）
5回　コンセプトシート作成
6～7回　全体構想フローチャート作成
8～9回　資料収集・ラフ案
10～11回　表現技法の決定
12～15回　試作
16回　試作作品検討</td><td colspan="2">後　期
1回　テーマ設定
2～3回　設定したテーマの周辺情報収集
4回　コンセプトシート作成
5回　全体構想フローチャート作成
6回　アイデア展開
7～15回　制作
16回　プレゼンテーション・総括</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～7 回　自主研究Ⅰ
8～12 回　自主研究Ⅱ
13～16 回　自主研究Ⅲ
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td><td>後　期
1～2 回　自主研究Ⅲ
3～8 回　自主研究Ⅳ
9～16 回　修了制作
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 年次に準ずる)
自由制作
・テーマと個性的表現の研究
・コンセプトと発想の展開
・学外研究</td><td>後　期
1～16 回　自由制作
・研究テーマの追及
・学外研究</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　自主研究テーマ課題の制作
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">表現の構想力、作品の達成度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

2年次　　実習　4単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技実習Ⅵ</td><td>担当者</td><td colspan="2">小笠 美華・辻野 宗一
ブラッキー中島・河野 榮一
中井 由希子・片山 知佳</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">美術工芸作品に関心を向け研究することにより、自身が目指すべき個性の指針が発見できるようにする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">様々な表現領域についての見識をもち、自己の作品表現のための表現コンセプトを確立して作品制作ができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td colspan="2">前　期
1回　模写作品選定
2回　漆喰等準備
3～5回　下絵制作　デッサン①
7～9回　壁に描画①
10～12回　下絵制作　デッサン②
13～16回　壁に描画②</td><td colspan="2">後　期
1回　作品研究、制作の計画
2～5回　下絵制作、デッサン③
6～10回　壁に描画③
11～14回　ストラッポ
15回　リタッチ
16回　まとめ、講評</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td colspan="2">前　期
1回　大作制作 1(小下図・草稿 完成)
2～9回　大作制作 1(号数選択)
10回　合評会
11回　大作制作 2(小下図・草稿 完成)
12～15回　大作制作 2(号数選択)
16回　合評会</td><td colspan="2">後　期
1～4回　大作制作 2
5回　合評会
6回　大作制作 3(小下図・草稿 完成)
7～15回　大作制作 3(号数選択)
16回　合評会</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2～4回　インタビューからデザインへ
5回　合評・プレゼンテーション
6～15回　制作実習(Ⅰ)テーマ選定
地域・社会における様々な問題点とその解決策
中間報告(プレゼンテーション)
16回　テーマ決定</td><td colspan="2">後　期
1～14回　制作実習(Ⅱ)
コミュニティデザイン
デザインによる問題解決へのアプローチ
15回　合評・プレゼンテーション
(もしくは展示等)
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～7 回　自主研究Ⅰ
8～12 回　自主研究Ⅱ
13～16 回　自主研究Ⅲ
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td><td>後　期
1～2 回　自主研究Ⅲ
3～8 回　自主研究Ⅳ
9～16 回　修了制作
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 年次に準ずる)
自由制作
・テーマと個性的表現の研究
・コンセプトと発想の展開
・学外研究</td><td>後　期
1～16 回　自由制作
・研究テーマの追及
・学外研究</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td><td>後　期
1 回　自主研究テーマ課題の制作
2 回　テーマ設定・デザイン研究・素材研究
3 回　プレゼンシート計画表作成
4 回　サンプル・マケット制作
5～15 回　皮革本制作
16 回　作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">選択した技法の到達度や作品の達成度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

2年次　実習　3単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技実習Ⅶ</td><td>担当者</td><td colspan="2">平田 泰延・石股　昭・西岡 幸二
松本 康代・近藤 卓浪・富松 留幹</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">造形表現の領域においての自己の確立と個性の表出が、いかに社会と関わるのかを追求する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">表現者として主体的に社会との関係を認識し、現代社会における問題意識を踏まえて個性的な観点から美的価値の創造ができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td colspan="2">前　期
1回　オリエンテーション
2回　風景　油彩 10 号
3～5回　人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50 号
6回　人体 男性 動くポーズ デッサン
7回　人体 男性 固定ポーズ デッサン
8回　講評会
9～10回　人体 男性 固定ポーズ 油彩 50 号
11～14回　人体 二人 組ポーズ デッサン 油彩 50 号
15回　合同講評会
16回　自画像 10 号</td><td colspan="2">後　期
1回　制作につながる作品 30 号程度
2回　制作エスキース
3回　学外研修(美術鑑賞 風景スケッチ)
4回　制作 100 号以上二点以上
5回　講評会
6～12回　制作
13回　合同講評会
14回　制作　完成度を高める
15回　審査　判定
16回　まとめ</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td colspan="2">前　期
1回　大作制作 1(小下図・草稿)
2～9回　大作制作 1(号数選択)
10回　合評会
11回　大作制作 2(小下図・草稿)
12～15回　大作制作 2(号数選択)
16回　合評会</td><td colspan="2">後　期
1～4回　大作制作 2
5回　合評会
6回　大作制作 3(小下図・草稿)
7～14回　大作制作 3(号数選択)
15回　大作制作 3
16回　合評会</td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td colspan="2">前　期
1回　ソーシャルデザインとは
2～4回　デザインプランニング
5～8回　企画デザイン開発
9回　プレゼンテーション
10～12回　イベントプランニング
13～16回　イベント成果物</td><td colspan="2">後　期
1～4回　イベント参加・展示
5～7回　イベント体験レポート
8～9回　企画書作成
10回　プレゼンテーション
11～15回　イベント体験
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～7 回　自主研究Ⅰ　(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
8～12 回　自主研究Ⅱ　(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
13～16 回　自主研究Ⅲ　(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td><td>後　期
1～2 回　自主研究Ⅲ　(1)アイデアスケッチ
3～8 回　自主研究Ⅳ　(2)テーマ設定
9～16 回　修了制作　(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 年次に準ずる)
自由制作
・テーマと個性的表現の研究
・コンセプトと発想の展開
・学外研究</td><td>後　期
1～16 回　自由制作
・研究テーマの追及
・学外研究</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　授業概要の説明と導入
2～15 回　①オブジェ制作／錫素材のペーパーウェイト
★デザイン研究
★素材研究
★プレゼンシート作成(A3 サイズ)
★モデル制作
16 回　作品講評</td><td>後　期
1～15 回　②メディア研究／展示環境の考察
★デザイン研究
★素材研究
★プレゼンシート作成(A3 サイズ)
★モデル制作
16 回　作品講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の達成度や社会への発表を踏まえた制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">６つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

2年次　実習　3単位　通年

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">実技実習Ⅷ</td><td>担当者</td><td>岸中 延年・ブラッキー中島・石黒 紀子
中井 由希子・村松 佳優</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="4">自己の到達目標を超えた次元での完成を体感することで得られる達成感を目指して実習する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="4">新たな技法による表現方法の研究を行い、社会生活の中で様々な創作活動ができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>洋画</td><td>前　期
1回　制作１　メゾチント　説明（歴史、技法）　版の準備
2回　下絵　テーマ「ハーフトーンを活かした表現」
3回　メゾチント素地作り　下絵制作（下絵提出）
4回　メゾチント素地作り
5～8回　バニッシャーによる製版（試し刷り提出）
9回　本刷り（本刷り提出）
10回　制作２　自由制作　下絵制作
11～13回　下絵制作　（下絵提出）
14～16回　製版</td><td colspan="2">後　期
1～15回　製版　（試し刷り提出）
16回　本刷り　合評　（本刷り提出）</td></tr>
<tr><td>日本画</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>デザイン</td><td>前　期
1～4回　オリエンテーション
インタビューからデザインへ
5回　合評・プレゼンテーション
6～15回　制作実習(Ⅰ)テーマ選定
地域・社会における様々な問題点の調査
中間報告(プレゼンテーション)
16回　テーマ決定</td><td colspan="2">後　期
1～14回　制作実習（Ⅱ）
コミュニティデザイン
デザインによる問題解決へのアプローチ
15回　合評・プレゼンテーション（もしくは展示等）
16回　まとめ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td>陶芸</td><td>前　期
1～2 回　制作準備(オリエンテーション)
3～7 回　自主研究Ⅰ
8～12 回　自主研究Ⅱ
13～16 回　自主研究Ⅲ
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td><td>後　期
1～2 回　自主研究Ⅲ
3～8 回　自主研究Ⅳ
9～16 回　修了制作
(1)アイデアスケッチ
(2)テーマ設定
(3)技法の再検討
(4)エスキース制作
(5)中間発表
(6)実制作
(7)社会に発表する制作研究
(8)合評会</td></tr>
<tr><td>染織</td><td>前　期
1～16 回　個々の年間計画に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 年次に準ずる)
自由制作
・テーマと個性的表現の研究
・コンセプトと発想の展開
・学外研究</td><td>後　期
1～16 回　自由制作
・研究テーマの追及
・学外研究</td></tr>
<tr><td>クラフト（工芸）デザイン</td><td>前　期
1 回　授業内容説明（授業の進め方、一般的注意、成績評価の説明）
2～5 回　各人の過去の作品ーデザインを考察、ポートフォリオ作成の継続、作品のデジタル化、画像処理演習
6～15 回　展示会 DM 制作－Illustrator、レイアウト演習
16 回　まとめ　展示講評</td><td>後　期
1 回　授業説明
2～7 回　後期作品制作
エスキースとプレゼンテーション
8～12 回　ポートフォリオ作成の継続・大学祭コンセプトシート作成
13～15 回　卒業制作用プレゼンテーションシート制作
16 回　まとめ　展示講評</td></tr>
<tr><td>教科書
テキスト
参考書</td><td colspan="3">必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="3">作品の達成度や更に上のレベルへの向上心などの制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">５つの系の中から１つを選択して履習する。</td></tr>
</table>

E 群 科 目　1回生　■実技演習

専攻科1年次　演習　3単位　後期

科目名	進級制作（洋画）	担当者	高 橋 顕 児
授業概要	専攻科１回生のまとめとして、作者の作品目標に基づいて自己の表現したいものが伝えられている作品になっているか問いながら作品を作っていきます。進級のための必修要件です。		
到達目標	・作者の特性を試行錯誤しながらも、発見できている。 ・絵画としての充実感がある。		
授業計画	後　期　大きさ 50 号 1 枚、100 号 1 枚以上　基本として油彩表現 1　進級制作計画提出 2　スケッチしながら主題を探る。 3　見つけたモチーフとそのねらいを明らかにする。 4　いくつかのエスキースを作り、その中から選び、絵の大きさ、構図を決める。 色彩計画をする。 5 6　専攻科担当の各先生の指導により、進めていきます。 7　講評会 8 9 10　合同講評会 11 12 13 14 15　審査判定 16　まとめ		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	制作過程の熱意、作品の内容、表現力、完成度により評価します。		
実務経験	幼児～中学生の絵画工作指導（幼稚園で 33 年間）、個展、グループ展にて発表、幼児～小学生の絵画工作指導と社会人対象の洋画指導（カルチャーセンターにて 11 年間）の経験を活かし、具体的に丁寧に指導する。		
備　考			

専攻科1年次　　演習　3単位　後期

科目名	進級制作（日本画）	担当者	石　股　　昭
授業概要	植物、鳥獣類、風景及び人物等の写生を通して、日本画の伝統的な表現技法を学びつつ、各人が個性豊かな作品を完成させる。		
到達目標	・制作テーマに応じた表現方法を選択し作品を完成させる。 ・自らの作品について客観的に理解し述べることができる。		
授業計画	後　期 1　制作テーマの研究　（100 号～150 号から選択） 2　写生・構想等の展開 3　〃 4　〃 5　小下図の研究 6　草稿の仕上げ 7　パネル作り 8　制作 9　〃 10　〃 11　〃　中間合評 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　最終合評		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	作品に対する取り組み及び達成度で評価する。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、個々のテーマの表現を客観的に見つめる力と作品にまとめ上げる力を高める指導を行う。		
備　考			

専攻科1年次　　演習　3単位　後期

科目名	進級制作（立体造形）	担当者	谷口　嘉彦・富松　留幹 中川　賀照
授業概要	専攻科１年間の学習成果として、立体造形表現分野に関する、知識と表現技法のまとめとして自由な構想による作品表現を行う。立体世界と空間認識に対する基本的知識と理解を元に、３次元世界での自由な作品表現を行う。		
到達目標	・多様な立体造形表現方法について説明することができる。 ・表現コンセプトを元に的確な表現方法を選択して作品表現ができる。 ・自身の作品について明確に第三者に対してプレゼンテーションすることができる。		
授業計画	後　期 1　進級制作計画書作成 2　　・発想、着想からの構想展開 3　　・構想案アイデアスケッチ展開 4　　・素材、表現技法の選択展開 5　○作品題名 6　○作品テーマ 7　○作品コンセプト 8　○資料調査展開 9　○表現方法、技術 10　○作品展示構想 11　○縮尺モデル 12　＊専攻科指導教員のもとで、充分に綿密な計画の上で制作進行する。 13　＊中間プレゼンテーション 14　＊改善点の指導 15 16　＊審査、講評、まとめ		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	作品テーマ設定と表現方法の整合性、制作プロセス及び作品完成度の総合評価。		
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を教える。個性豊かな独創的発想と造形素材の研究を指導する。		
備考			

E 群 科 目　2回生　■実技演習

専攻科2年次　演習　3単位　後期

科目名	修了制作（洋画）	担当者	高 橋 顕 児
授業概要	美術科２年間と専攻科２年間の集大成で、その成果を修了制作展にて発表します。これまで学んできた教養、実技を生かして内容のある質実な作品をめざします。作品は表現伝達力を必要とします。修了のための必修要件です。		
到達目標	・作品のビジョンが明確であるか。 ・作者の良さや独自性が出ていること。作者の独自の観点がでている ・作品としての総合力、充実感がある。絵画としての充実感があること。		
授業計画	後　期　大きき 100 号２枚程度以上　基本として油彩表現 1　修了制作計画提出 2　スケッチしながら主題を探る 3　見つけたモチーフとそのねらいを明らかにする。 4　いくつかのエスキースを作り、その中から選択絵の大きさ、構図を決める。 色彩計画をする。 5 6　専攻科担当の各先生の指導により、進めていきます。 7　講評会 8 9 10　合同講評会 11 12 13 14 15　審査判定 16　まとめ		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	制作過程の熱意、作品の内容、表現力、完成度により評価します。		
実務経験	幼児～中学生の絵画工作指導（幼稚園で 33 年間）、個展、グループ展にて発表、幼児～小学生の絵画工作指導と社会人対象の洋画指導（カルチャーセンターにて 11 年間）の経験を活かし、具体的に丁寧に指導する。		
備　考			

専攻科2年次　　演習　3単位　後期

科目名	修了制作（日本画）	担当者	石　股　　昭
授業概要	四年間の集大成として、造形上のあらゆる技法や材料を効果的に表現に生かし、単なる思い付きや表面的な表現で終ることなく、自由な発想に基づく新しい造形表現を目指して、合評会等も行いながら、将来作家として活躍できるように制作する。		
到達目標	・自由な発想で新しい造形表現を目指した構想ができる。 ・様々な技法や材料を効果的に生かした表現ができる。 ・作品を完成すると共に修了制作展に展示し、自らの作品について述べることができる。		
授業計画	後　期 1　制作テーマの研究　　（100 号～150 号から選択） 2　写生・構想等の展開 3　　〃 4　　〃 5　小下図の研究 6　草稿の仕上げ 7　パネル作り 8　制作 9　〃 10　〃 11　〃　　中間合評 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃 16　最終合評		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、個々のテーマの表現を客観的に見つめる力と作品にまとめ上げる力を高める指導を行う。		
備　考			

専攻科2年次　　演習　3単位　後期

科目名	修了制作（立体造形）	担当者	谷口　嘉彦・富松　留幹 中川　賀照
授業概要	専攻科２年間の学習成果として、立体造形表現分野に対する幅広い理解の元に、自由な発想・構想立案の上で制作するものです。		
到達目標	・立体造形表現分野に対する幅広い視点を持って表現活動が出来る。 ・表現コンセプトを元に的確な表現方法を選択して作品表現ができる。 ・自身の作品について明確に第三者に対してプレゼンテーションすることができる。		
授業計画	後　期 1　修了制作計画書作成 2　・作品構想の展開 3　・素材、表現技法等の選択展開 4　・構想案アイデアスケッチ展開 5　○作品題名 6　○作品テーマ 7　○作品コンセプト立案 8　○資料調査展開 9　○表現方法、表現技術 10　○作品展示構想案 11　○縮尺模型 12　＊中間プレゼンテーション 13　＊専攻科指導教員のもとで、充分に綿密な計画の上で制作を進行する。 14　＊修了制作プレゼンテーション 15　＊改善点の指導 16　＊審査・講評		
教科書テキスト参考書			
評価の方法	作品テーマ設定と表現方法の整合性、制作プロセス及び作品完成度の総合評価。		
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を教える。個性豊かな独創的発想と造形素材の研究を指導する。		
備考			